

ひと/こと 風雲録



「その主役は当事者なのだ」

“ビレッジ”から学ぶ会
神奈川県

上森得男（家族）

療と福祉を統合したサービスが提供されています。利用者であるメンバーが医師や職員と一緒に自分用のリハビリテーション・プログラムを作成し、それを果たしています。その出発点には「当事者の快復と社会参加のために必要なことは何でも提供する」という組織としての基本方針が存在しています。

「VILLAGES (The Village Integrated Service Agency)」は米国カリフォルニア州ロングビーチ市に本拠を置く、精神障害者の「リカバリー」を目的とした組織です。「ビレッジ」ではこの語を単に「病気がよくなる」という意味だけでなく、「人間として立ち直る」というニュアンスをこめて使っています。

「ビレッジ」を運営するのは非政府組織（NGO）である「ロサンゼルス郡精神保健協会」です。ここでは日本にはまだ見られない精神科医

米国の当事者活動

しばらく前のことですが、私は「ビレッジ」の兄弟のような組織「プロジェクト・リターン（Project Return: The Next Step）」のメンバーが来日したとき、通訳をさせていただきました。そして彼らの元気のよさ、明るさに心を打たれました。とても前向きにリカバリーの道を歩んでいるのです。そういった米国の当事者に出会うチャンスに何度も恵まれました。そして彼らの生きていく姿勢、あるいは語る言葉から貴重な収穫を得ました。「プロジェクト

ト・リターン」は当事者が運営する当事者のための快復運動組織です。それに対し「ビレッジ」はどちらかといえば病気が重い方々のための医療福祉組織です。しかし「ビレッジ」そのものが「プロジェクト・リターン」に加盟しているのです。だから兄弟のような組織と申しました。

ビレッジには、まず医師や専門家が加わった当事者の行動チームがあると考えてください。自分が飲む薬は医師とよく相談し、経過を報告し、自分に合った薬に近づくようにします。そして同様な病気を持つ仲間を訪ね、相談にのり、さまざまな手助けをします。日常の買い物の手伝いや金銭管理だけでなく、医療、教育、住宅、就労など、さまざまな面で仲間の応援をします。その人に合った快復・社会参加をめざしてのプランを立て、支援するのです。ここには、上下関係はなく皆が同じメンバーです。このような仕事をすると、収入が得られるシステムになってい

う（ビレッジ流とも呼ぶべき）発想に注目すべきではないかと思えます。

家族、当事者として

私はうつ病の当事者です。また、自分の兄弟や家族の中に統合失調症にかかったものが何人も出て、長い間苦勞をしました。それは今でも続いています。精神の疾患（特に統合失調症）は治りにくい面があり、確立した治療法はまだ生まれていません。しかし従来に比べて数段進歩した薬が登場し、希望がもてる状況になっていくことも事実です。初発（はじめて病気の症状が現れること）の方々の治癒率が向上しているのは、何といっても抗精神病薬の進歩のおかげが大きいのです。しかし、残念ながらその恩恵に浴していない方もたくさんいます。抗精神病薬の処方には専門医にとっても難しい課題です。精神科治療では患者さんの個人差が甚だしい面もあります。統合失調症などの発症原因の解明が進み、より

ます。そこから一般就労に進む人たちもいます。

ビレッジをスタートさせたのは、マーク先生やリチャード・ヴァーンホーンという神父さんなど少数の方々で、一九八〇年のことでした。以後大きな役割を果たしています。また、兄弟分のプロジェクト・リターンも発展を続けています。「このようなやり方をカリフォルニア州全体の中に広めていきたい。ひとりひとりに適したプランをもとに活動することで、たくさんの方々がうまれるのを見てきた。これを日本でも広めてもらいたい」とリチャードさんは抱負を語っています。私は八月二日から約一週間現地を訪問し、勉強をさせていただきました。

※「ビレッジ」から学ぶ会では、一〇月一四日、マーク・レーガン博士（「ビレッジ」精神科医）講演会「リカバリーへの道」を厚木シティプラザで開催します。（申し込みは終了しています）
協賛 厚木市家族会「フレッシュ厚木」、後援 ヤンセンファーマ株式会社